

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名（県立名張高等学校・全日制）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		校訓である「自律」「協調」「創造」の精神を活かし、地域とともに新時代の社会で活躍できる人材を輩出する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>次の資質・能力を身につけた生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律：大きく変化する社会の中で、自分の力を信じ学び続ける姿勢 ・協調：社会のニーズを受け、仲間とともに目的に向かって協働する中で、それぞれの能力を発揮し、作り上げていく達成感を共有できる力 ・創造：自分たちの感性を形にし、表現・発表することの喜びを実感できる力
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒とともに <ul style="list-style-type: none"> ・信頼：生徒との信頼関係が構築できる。 ・授業：ICTを活用し、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を中心に生徒の人間性と専門性を高めることができる。 ・相談：学習の躓きや日頃の悩みに耳を傾け、粘り強い支援と指導ができる。 ○ 保護者・地域社会とともに <ul style="list-style-type: none"> ・信頼：保護者との信頼関係が構築できる。 ・連絡：日々の様子や変化を的確に連絡できる。 ・情報：希望する進路が実現できるよう早め早めの情報提供ができる。 ○ ワークライフバランスを意識した働き方ができる職場環境 <ul style="list-style-type: none"> ・会議の精選や業務の効率化などにより「働きやすい職場」を作ると同時に、自己の研修の還流等を図ることで「働きがいある職場」をつくる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <p>生徒アンケートの結果、生徒の約40%が就職を希望し、約30%が専門学校、約30%が四大・短大への進学を望んでいる。授業、学校行事、部活動を中心に教育活動のすべてに対する期待度が高い。</p> <p><保護者></p> <p>保護者アンケートから学校目標や教育目標への理解度は高い。多様な進路に対応し進路実現を可能にしてくれる学校になってほしい。家庭学習の充実を求める声がある。</p> <p><地域></p> <p>地域を支え、地域をリードする力を持った人材の輩出と情報発信</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭></p> <p>生徒全員が安心・安全に学べる環境と校風</p> <p><地域></p> <p>信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化。地域づくりのパートナーとしての役割</p> <p><就職先></p> <p>卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出</p> <p><進学先></p> <p>学び続ける力と志を備えた人材の輩出</p>	<p><家庭></p> <p>基本的な生活習慣の確立。本校教育方針へのさらなる理解と協力</p> <p><地域></p> <p>学校と地域が協働した取組みへの推進。地域教育力の発揮</p> <p><就職先></p> <p>インターンシップ、進路講話への協力。継続した採用</p> <p><進学先></p> <p>高大連携授業、進路講話への協力</p>

(3) 前年度の学校 関係者評価等	<p><ICT 教育について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度、長足の進歩を遂げたと思う。生徒も柔軟に対応できた。 <p><学校生活について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい判断だったが、修学旅行を初め学校行事については、工夫と対策で行うことができたことで、教育効果が上がったと考えられる。 ・コロナの影響で学校に来にくい生徒への対応も求められる。 <p><人間関係について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶がきちんとできる。コミュニケーションの基本であるのでさらにすすめて欲しい。 <p><部活動について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動を行う中で生活指導も担ってきた。働き方改革を進めていく中で、今まで通りの活動は難しくなりつつある。 <p><地域連携について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域教育との連携が必要である。そのため、情報発信を更にすすめて欲しい。地域の学校として、まずは現状を認知されることが大切である。広報紙の活用は有効であると思う。 ・地域連携の取組みを進めることで、地域外への流出を止めることができている。 ・地域ボランティア、地域学の学習などがすすんできている。 ・卒業生と在校生で行った名張学園祭はすばらしい成果をあげた。 <p><働き方改革について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の努力だけでは難しいのではないかな。 	
	(4) 現状と 課題	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Society5.0 の世界で、周りの人と協働して、自分らしく生き生きと活動できる力を育成できるよう、教育課程を見直す必要がある。 ・アクティブラーニングの視点からの主体的・対話的で深い学びについて、具体的な目標を定め、確実な取組みを進める必要がある。 ・ICT の活用は待ったなしであるので、よりよい研修を通じて教員一人ひとりのスキルを上げていく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症対策と教育活動の両立をすすめていかなければならない。 <p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革について、更に具体的な目標を定め、確実な取組みを進める必要がある。 ・学校情報誌の発行を定期的に計画し、更に細やかな情報発信を行い、地域からの信頼を高めていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○ 授業</p> <p>生徒の確かな学力の向上を図るため、すべての教員は ICT を活用し、主体的・対話的で深い学びにむけた授業改善を進め「わかる授業」と「将来につながる授業」を行う。</p>
	<p>○ 指導</p> <p>豊かな心を育成するため、教職員は人権教育を柱に安心して学べる学習環境を整える。規範意識をさらに高め、生徒の自己肯定感・自己有用感の醸成を目指し、粘り強い指導と支援を行う。</p>
学校運営等	<p>○ 働きやすさ</p> <p>無駄な仕事はやめる。①名張高校にとって良いことで現在実行していることは「継続する」。②名張高校にとって良いことなのにできていないことは「すぐ始める」。③すぐにやめた方がいいことは「すぐやめる」。業務の効率化と円滑な引き継ぎによって「働きやすい」名張高校を目指す。</p> <p>○ 働きがい</p> <p>会議を精選し、会議時間を縮減する。①早め早めの連絡調整を徹底することで会議時間を短縮する。②各種委員会での議論を深め、委員会から改善案を提案し、改善策を実行に移す。③空き時間は教材研究に集中できる組織風土を育てる。各分掌各学年がそれぞれにおいて責任を果たすことで「働きがい」のある名張高校を目指す。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 … 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 … 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 … 「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力 の向上	<p>(1)教育課程の改善</p> <p>【活動指標】 新学習指導要領における評価の在り方を確立するとともに、本校の総合学科としてのアイデンティティを確認し、カリキュラムマネジメントを行う。</p> <p>【成果指標】 全ての教科で次年度を見据えた考査や授業を行い評価を議題にした教科会を行う。</p> <p>(2)授業改善</p> <p>【活動指標】 生徒による授業評価を2回(7月、12月)実施</p> <p>【成果指標】 「ICTを活用した授業が行われている」と回答した生徒の割合 60%</p>	<p>(1)新たな観点による評価の在り方について、教員研修等を通し、意見交換することができた。また、教科毎の評価について、事例を通じた研修会を開催した。</p> <p>(2)授業評価に係るアンケート項目の変更により、ICT活用率については、評価対象としなかった。次年度以降、実施し、成果指標に位置付けたい。</p>	◎
豊かな心の 育成	<p>(3)基本的な生活習慣の定着と確立</p> <p>【活動指標】 定期的に、学年通信等での提示、SHR・LHRでの指導、学年集会での指導等</p> <p>【成果指標】 生徒満足度調査において、「基本的な学校生活習慣の定着に向けて、適切な指導が行われていますか」の問いに、行われていると回答した生徒の割合93%</p> <p>(4)安全・安心教育</p> <p>【活動指標】 生徒支援部(生徒指導係・保健係)、人権教育、学年による講演・指導等</p> <p>【成果指標】 生徒満足度調査において、「健康と安全について、適切な指導が行われていますか」の問いに、行われていると回答した生徒の割合95%</p> <p>「命や人権を大切にする指導が適切に行われていますか」の問いに、行われていると回答した生徒の割合98%</p> <p>(5)意欲の育成</p> <p>【活動指標】 進路実現に向けた進路指導部・学年による指導等</p> <p>【成果指標】 生徒満足度調査において、「生徒の進路実現に向けて効果的な指導を行っていますか」の問いに、行われていると回答した生徒の割合98%</p>	<p>(3)「基本的な学校生活習慣定着指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成(94.4%) ※昨年度93.6% <p>(4)「健康・安全指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成(97.2%) ※昨年度95.7% 「命や人権を大切にする指導」 未達成(96.8%) ※昨年度96.8% <p>(5)「進路実現に向けての指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> 未達成(95.1%) ※昨年度96.2% 	◎

改善課題

- ・ICT利活用の充実を目指すため、各教科よりICT担当者を選出する等、情報委員会の刷新を目指している。BYOD導入の初年度に向け、一層の充実を図りたい。
- ・学校生活に係る満足度は高い水準にあるが、生活習慣の確立や定着に至っていない生徒もいる。中長期的な目標を生徒ともに共有し、一層の意欲向上に向けた取組みにつなげていきたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 … 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 … 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 … 「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
総勤務時間の縮減	<p>(1)働きやすい職場環境の構築</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 80%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 95%以上 ・放課後開催の会議が60分以内に終了した割合 90%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外労働30時間以下 ・1人当たりの年間休暇取得日数10日以上 	<p>(1)「定時退校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未達成(76.3%) ※昨年度78.0% 「部活動休養日」 ・達成(96.4%) ※昨年度100% 「60分以内の会議」 ・達成(93.0%) ※昨年度42.3% 「年360時間超え」 ・未達成(5人) ※昨年度4人 「月45時間超え」 ・未達成(30人) ※昨年度25人 「平均時間外労働」 ・達成(18.8時間) ※昨年度16.9時間 「年休取得日数」 ・達成(19.7日) ※昨年度22.5日 	◎
情報提供による信頼の構築	<p>(2)ホームページ・学校情報チラシ等による情報提供</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新 月1回以上 ・中学3年生とその保護者及び地域を対象とした学校情報誌の発行 年4回以上 ・報道機関への資料提供 年6回以上 	<p>(2)「ホームページ更新」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時実施 「情報誌の発行」 ・達成(5回) 「報道機関資料提供」 ・達成(7回) 	※

教職員の資質向上	(3)コンプライアンス研修 【活動指標】 校内研修 年3回以上 (4)教員対象 人権研修 【活動指標】 校内研修 年3回以上	(3)「コンプライアンス研修」 ・ 達成(3回) 「人権研修」 ・ 達成(4回)	◎
----------	---	---	---

改善課題

- ・ 会議時間の短縮については、一定の成果が得られたものの、時間外労働時間の大幅な短縮、改善には至らなかった。次年度以降も引き続き、働き方改革を推進させたい。
- ・ 情報誌（NEWS LETTER）については、定期的に発行し、中学校や私塾等へ配布することができた。広報の一層の充実化を図るため、学校紹介動画の作成にも取り組むことができた。

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の学校生活に係る満足度は極めて高い水準にある。満足感や充実感が低く、目的意識が希薄な生徒に対しては、引き続き、丁寧な指導が必要である。 ・ 情報誌の発行等、積極的な情報発信はこれからも継続させるべきである。 ・ 主権者教育の取り組みは地域連携だけでなく、地域の課題克服を全体で考える良い機会となっている。引き続き、取り組んでいただきたい。 ・ 保護者アンケートの結果は、学校の情報発信の強み、弱みを把握できる大切なものである。情報発信の在り方を考える上において、有効活用していただきたい。 ・ 教職員の働き方改革の推進にあたっては、保護者や生徒の声を参考にすれば良い。
--------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT利活用の進捗状況については、情報委員会等において定期的に情報共有する。 また、ICT利活用に係る教員研修を随時開催し、教員の授業力向上等につなげていく。 ・ 新系列新専攻（令和3年度入学生より）のカリキュラムマネジメントの実現に向け、一層活発な地域連携を推進させる。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革の推進にあたっては、引き続き、具体的な指標を定め、取り組んでいく。 ・ 広報活動を更に充実させ、地域からの信頼を一層高める。また、総合学科としての取り組みを地域連携、地域協働の中から展開していく。